

小学校におけるスクールエコセンターの役割に関する研究

— フィリピン・カランバ市を事例として —

松本 万里子

キーワード： 固形廃棄物管理, スクールエコセンター, 固形廃棄物に関する学校教育プログラム, リサイクル, 分別, フィリピン

1. 研究背景と目的

国内の人口増加と急速に経済が発展するフィリピンにおいて、固形廃棄物管理は極めて重要な課題となっている。同国の固形廃棄物管理の全般について定めた「固形廃棄物エコ管理法 (Republic Act 9003)」では、固形廃棄物管理の実施権限を地方分権化した。また、同法では各地方自治体に「資源回収施設」(廃棄物の分別・リサイクル・コンポスト化を行う施設)を設置すること、市民の環境意識向上や行動促進に向けた環境教育の必要性が強調されている。資源回収施設に加えてカランバ市では、廃棄物の分別だけの機能を持ち、通常の資源回収施設よりも安価に設置できる「エコセンター」を市内の小学校、住宅地、リゾート施設、病院などに設置している。本研究では、このうち小学校に設置された「スクールエコセンター」と固形廃棄物に関する学校教育プログラムである“Eco-waste sa Eskwela”プログラムに焦点を当てた。また本研究では、(1) “Eco-waste sa Eskwela”プログラムとスクールエコセンターの活動の関連を評価すること、(2) 児童の意識・参加・態度の観点からスクールエコセンターの意義を明らかにすること、(3) 児童に対するスクールエコセンターの教育的効果を明らかにすること、を目的として研究を行った。

2. 研究対象地と研究方法

本研究の対象地は、マニラ首都圏から南 54 km に位置するラグナ州カランバ市である。カランバ市では、近年の急速な人口増加に伴い固形廃棄物管理が同市における重要課題の一つとなっている。本研究では、キー・インタビューとアンケート調査の手法を用いて研究を行った。アンケート調査では、市内の小学校 10 校を対象とし、小学校 6 年生の児童へアンケート票を配布した。対象校 10 校のうち、8 校ではすでにスクールエコセンターが設置されており、2 校ではスクールエコセンターが設置されていない。

3. 結果と考察

“Eco-waste sa Eskwela”プログラムと連携したスクールエコセンターの活動は、適切な分別を実施する機会だけではなく、再利用可能な廃棄物による収入を獲得する経済的機会も提供していることが明らかとなった。また、再利用可能な廃棄物によって得られた収入は、学生グループの支援や学用品の購入などといった児童のために使用されていることが確認された。さらに、スクールエコセンター自体は、小学校における固形廃棄物管理の集約を可能にすることが明らかとなった。また、スクールエコセンターのモデル校とスクールエコセンターの設置有無によって分けた小学校における児童が回答したアンケート調査結果を比較することにより、モデル校の児童は、適切な分別を実行しており固形廃棄物の発生に対する責任感を有しているという 2 つの特徴が明らかになった。よって、“Eco-waste sa Eskwela”プログラムと連携したスクールエコセンターの活動は、児童による適切な分別の実施や固形廃棄物の発生に対する責任感の向上といった教育的効果をもたらすことが示唆される。また、小学校の教員や関係者による密接な指導が、スクールエコセンターの活動を成功に導く重要な要因である。